

茅野出身 患者交流サイト運営の社団法人代表

# 「がんは克服できる」

## 闘病後マラソン復帰の経験 手記に



がんから再起し、マラソンに復帰した経験を語る大久保さん

茅野市宮川出身で都内在住の社団法人代表、大久保淳一さん(51)が、がんから再起してマラソン大会に復帰した経験を手記「いのちのスタートライン」にまとめ、講談社(東京)から出版した。がん患者が交流できるインターネットサイトも今年開設。がんは克服できると伝えたいと意気込んでいる。

大久保さんは諏訪清陵高校(諏訪市)卒。石油会社を経て99年、ゴールドマン・サックス証券(東京)に入社し、海外の投資家を相手にした。仕事の傍ら、中学、高校時代に陸上競技をしていたこともあり、マラソンを始めた。

2007年2月、マラソンの練習中に転倒して骨折。入院した際、精巣がんが見つかった。全身のリンパ節への転移も確認された。抗がん剤の副作用で間質性肺炎にも苦しみながら、治療を続けた。

07年11月に退院。がんから再起した海外の自転車選手や米大リーグ選手の活躍に刺激されて、09年、ランニングを再開し、月10〜15キロ走り込んだ。13年には北海道で100キロマラソンを完走。「ゴールではなく、振り出しに戻っただけ」と受け止め、月300キロの走り込みを重ねた。その後、フル、ハーフ、100キロのマラソンでいずれも発病前の記録を更新した。

昨年、「仕事でも自分のやりたいことに挑みたい」と決意して証券会社を退社。「がん患者には社会復帰に向けた希望が必要」と考え、患者同士が情報交換できるサイトを運営する社団法人を設立した。2月に始めたサイト「5 YEARS (ファイブイヤーズ)」では、がんから再起した人が実際に受けた治療や復帰後の活動を紹介している。こうした経験をつづった手記は税抜き1500円。「自分がかかされている意味を考

え、社会に恩返ししたい」と大久保さん。19日午後3時〜4時半、岡谷市塚間町の笠原書店本店で講演する。無料。定員80人。申し込みは同店(☎23・5070)へ。